

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえトピックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



8/4 日中友好交流都市中学生卓球大会出場

8月4日～6日に中国北京で開催された中学生卓球大会に浦添中学校2年伊禮結登選手、始澤ひなた選手が出場しました。大会は日中両国の友好都市同士で合同チームを結成し、他の合同チームと対戦するもので、両国の友好関係とスポーツ界の相互交流を促進する目的で開催されました。今大会は日中全土から42の合同チームが出場し、本市は友好都市である泉州市とチームを結成しました。2人は「初めて見る技術や戦術が勉強になった。学んだ技術を部活の仲間にも伝えたい」と話し、試合以外の場面でも、泉州市のチームメイトや他の地域の選手たちと言語や文化の壁を越えた交流を深める機会となりました。



7/28・29 夏休みは子どもたちでいっぱい!

2日間にわたり、中央公民館では夏休み特集イベントを開催し、約80人の小中学生と保護者の皆さんが来館しました。午前の部は「水のふしぎ講座」、午後の部は「Mr.カガクの科学工作教室」が行われ、会場は子どもたちの笑顔でいっぱいになりました。

それぞれの講座の受講者からは、「水をもっと大切にしたい」「いろいろな光について知ることができて面白かった」「音が聞こえるヘッドホンを作れて嬉しかった」などの感想が寄せられました。イベント終了後は、「うらそえ5館スタンプラリー」にも多くの子どもたちが参加し、スタンプを集めてシールや缶バッジをゲットしようという元気に挑戦していました。



7/23 地域に貢献した前自治会長へ感謝状

長年自治会長を務め、地域のために尽力し、今年退任した我部政義さん(浦添ハイツ)、神山高成さん(当山)、宜野座富夫さん(浦西)、新垣有三さん(西原二区)、宮城實さん(屋富祖)、久松真さん(西原一区)に感謝状が贈呈されました。代表で挨拶した宜野座富夫さんは「紆余曲折あり、喜怒哀楽あり、山あり谷ありでしたが、想いを寄せてくれる会員の協力を得ながら職務を全うし、人生において大変いい経験をさせていただきました」と語り、松本市長は「地域社会を取り巻く環境が変わっていく中、自治会長として地域の団結を図り、明るく住みよい地域づくりに取り組んでいただきありがとうございました」と感謝の意を表しました。



7/24 うらそえ織を使ったお守りを制作&贈呈

地域支援に役立ててもらおうと、手作りのお守り40個がうらそえ織協同組合に贈呈されました。寄贈されたお守りはうらそえ織協同組合を通して販売され、その利益は地域の子どもの食堂や施設に寄付されます。この取り組みは、陽明高校総合学科と陽明高等支援学校総合産業科の生徒が所属している家庭クラブ活動の一環で、お守りはうらそえ織の余った端切れ生地を再利用し、デザインや包装まで手作りで作られました。家庭クラブ会長の喜屋武彩南さん(2年生)は「うらそえ織が浦添の産業として広まってほしいのと同時にいろんな形で支援も届いてほしい」と話しました。デザインは全8種類。浦添市養蚕絹織物施設サン・シルク1階とオンラインで販売しています。



8/6 浦添市と日向市 つながる平和への絆

沖縄戦時中、浦添国民学校の児童が疎開したご縁もあり、今年も宮崎県日向市の中学生が市役所を表敬しました。日向市役所教育総務課長の鍋島浩一さんが「過去の悲惨な歴史を繰り返さないためには、戦争がどのようなものであったか正しく伝えることが大切」と述べ、松本市長との懇談を中学生たちは熱心に聞き入っていました。

その後、浦添市中学生平和交流団と交流会が行われ、グループワークでは「相手の意見を尊重することの大切さ」「戦争や平和について自らの言葉で伝えていきたい」と意見を交わしました。交流の最後は、伝統芸能であるエイサーや短歌朗詠を披露し、お互いの文化を紹介しながら、平和への絆を深める機会となりました。



7/23 劉衛流あずさ浦添龍鳳館の優勝報告!

沖縄県スポーツ少年団空手道交流大会および、県中体連空手道大会にて好成績を果たした劉衛流あずさ浦添龍鳳館の皆さんが、市長に大会の結果を報告しました。

男子キャプテンの安里碧さん(中学3年)は「このような結果を出せたのも、あずさ先生、指導員の先生のご指導、家族や仲間の支えのおかげです。感謝の気持ちを忘れず、より一層稽古に励み、応援に応えられるよう全力を尽くします」と九州および全国大会への意気込みを述べました。松本市長の「皆さんの日々の鍛錬が素晴らしい結果に繋がったと思います。次の大会でも優勝できますか!」との問いに生徒たちは「はい!!」と元気よく答えました。



7/7 防犯カメラ設置で盗難被害を抑止

自転車やバイクの盗難を防ぐため、防犯カメラ設置がてだこ浦西駅で行われました。

浦添警察署によると、市内3駅における乗り物盗難の被害者は主に18歳以下が占めており、また被害のほとんどが無施錠で、ツーロック等の啓発活動を行っても歯止めがかからないことから、今回3駅の中でも発生件数が多いてだこ浦西駅に防犯カメラが設置されました。

仲程署長は「防犯カメラを設置することにより自転車窃盗のみならず、その他の犯罪の予防につながると期待しています」と述べました。その後、警察職員と関係者らで自転車やバイクがきちんと施錠されているか、駐輪場の巡回を行いました。